

地域のニュース

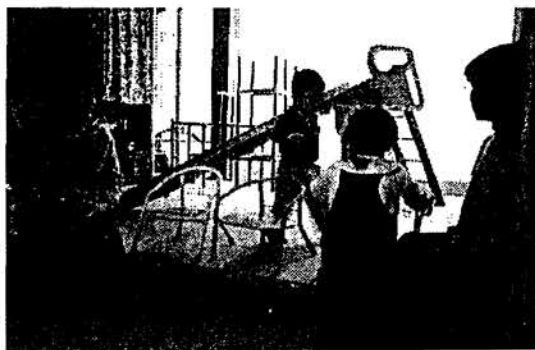
NPO子どもネットワークセンター天気村

きめ細やかな対応

お母さん ネットワーク作り展開

草津

草津市の特定非営利活動法人「NPO子どもネットワークセンター天気村」が、子育て初心者のお母さんたちを支えるネットワーク作りを展開している。働くお母さんたちのための保育園と活動の輪を広げてきた。代表の元中学校教師、山田豊子さん(44)同市東草津は「市民グループならではの育児支援を目指す」としている。



天気村は、子どもの育つ中で子どもたちが農作業環境を見直そうと1987年、山田さんが設立。自然遊びなどを体験する「こんべい」という称を冠せようと、2年前には「こんべい」という保育園と活動の輪を広げてきた。代表の元中学校教師、山田豊子さん(44)同市東草津は「市民グループならではの育児支援を目指す」としている。

天気村は、子どもの育つ中で子どもたちが農作業環境を見直そうと1987年、山田さんが設立。自然遊びなどを体験する「こんべい」という称を冠せようと、2年前には「こんべい」という保育園と活動の輪を広げてきた。代表の元中学校教師、山田豊子さん(44)同市東草津は「市民グループならではの育児支援を目指す」としている。

【藤田 祐子】

参加して1年になるとい... 市内の主婦は、参加のきっかけを「引越してきて知り合いがおらず、市役所に相談してここを紹介してもらった」という。「近くに同じ年ごろの遊び仲間がないので、子どもも週に一度の天気村を楽しみにしている。母親同士も仲良くなり、プレイグループが終わった後に連れ立って食事に行ったりしています」

「保育園が出来る前の「こんべい」という活動に参加していた子が中高生になり、ボランティアとして参加、小さな子を世話したり、父母のボランティアグループが生まれるなど、園の輪も広がっている。辻さんは「NPO活動は、公的システムや営業ベースでは対応しきれない部分に手を伸ばすことができる。地域コミュニティを再生し、少しずつでも子どもたちの環境を築いている実感がありません」と、可能性に期待を込める。

家族大好き編集室

子育て



天気村は、子どもの育つ中で子どもたちが農作業環境を見直そうと1987年、山田さんが設立。自然遊びなどを体験する「こんべい」という称を冠せようと、2年前には「こんべい」という保育園と活動の輪を広げてきた。代表の元中学校教師、山田豊子さん(44)同市東草津は「市民グループならではの育児支援を目指す」としている。

天気村は、子どもの育つ中で子どもたちが農作業環境を見直そうと1987年、山田さんが設立。自然遊びなどを体験する「こんべい」という称を冠せようと、2年前には「こんべい」という保育園と活動の輪を広げてきた。代表の元中学校教師、山田豊子さん(44)同市東草津は「市民グループならではの育児支援を目指す」としている。

野外遊びを中心に1日を過ごす。保育士だけでなく、研修を受けた地域の保育サポーターが活躍している。小さなニーズでもきめ細やかな対応が出来るのがNPOの良さという。辻さんは語る。「天気村の活動を14年続けて、保育へのニーズが非常に多様化してきたと感じています。営利的には成り立たなくても、お母さんへの応援になることなら、出来る限り応えたい」

同村は、保育園オープン半年後、同年齢の幼児と母親同士と一緒に遊びながら情報交換できる「こんべいプレイグループ」も開設した。参加は原則として第一子とお母さんに限っているが、会員制をとり、午前10時～正午の時間内であれば、いつでも来ていつでも帰っていい。お母さん同士、2歳の子とも母親が2組、訪れていた。子どもたちは、それぞれに絵本をめぐったり、一緒にボールを転がしたり。